

林野庁長官賞

「木のネットワークで町づくり」都市との交流を活かし、
産地で木の家並みづくり
－エコロジー住宅提供、林業・木材の町づくり－

モクネット（モクネット事業協同組合 代表理事 加藤長光）

□事業体の構成

ストックヤード1、製材5、木材加工5、木工3、設計事務所2、インテリア2、工務店3、
(有)木創（株主の呉服、生花、スポーツ用品など13業種17人）、モクネット協組（組合
員の工務店、インテリアなど6業種6人）

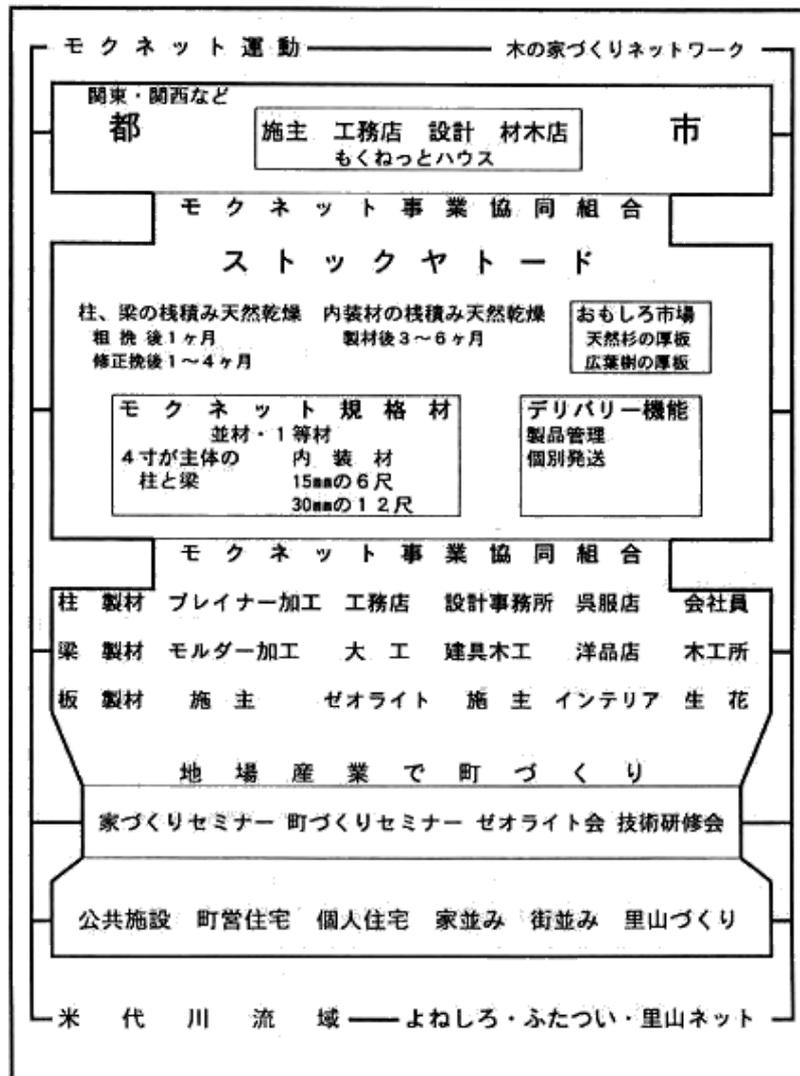
〒018-3143

秋田県山本郡二ツ井町大田面12-3

TEL 0185-73-5660 FAX 0185-73-5856



□事業の仕組み



1. 地域の概要

ニツ井野は、秋田県北部に位置し、米代川と白神団地から流れ出る藤琴川や八幡平からの阿仁川が合流する地点で天然秋田杉の仁鮎水沢学術参考杯がある。流域の木材が東洋一と言われた天神貯木場などに集積され、日本で最後（昭和39年）まで残った筏で、25km先の河口「木都能代」まで流送した歴史を持つなど、杉の集散地であり、流域の船運の要所で、築城や船の用材としての杉や鋳物、生活物資などと人の往来で賑わい栄えた町である。

ニツ井野の面積13,720haの78%が林野で国有林が50%であり、さらに民有林の73%が人工林である。全世帯の40%の1,730戸が林家で、1ha未満の零細林家が最も多い。

2. 事業内容等

1. 事業の目的

地場産業（林業・木材）で活性化（観光や商業も含む）を図り、木の家づくりで地域振興につなげ、歴史的で文化的な自前の・林業・木材の町づくりを目指す。

2. 手業の内容

ストックヤードの機能を活かし、モクネット運動に理解ある流域の各製材メーカーから、柱・梁・板材などの「モクネット規格材」を集材。3～6ヶ月の天然乾燥。加工メーカーで、柱・梁のプレナー加工や内装材のモルダー加工。

加工品は、仕分・分類・管理。発送は個別対応。このようにデリバリーなどは、ストックヤードで一括して行う。

無垢の家具やテーブル、キッチンなどの要望に対応する天然秋田杉や広葉樹の厚板などの「おもしろ市場」も開設している。

これまで以上に、都市との交流を深め、モクネット規格の住宅部材を供給することで国産材・秋田杉の需要拡大に努めている。

ここ数年、伝統的な地域住宅を町づくりの観点から、地域材で地元の木材利用を拡大するため、家づくりセミナーや町づくりセミナーなどを開催。

同時にモクネット規格材の地域内供給も始めた。

「モクネットは、町づくり・木の家づくりの運動とそれを“かたち”にする事業を併せ持つ」

3. 施設の整備状況

組合自体の生産施設はない。

モデルハウス1棟（研修の間でもある）

4. 事業の実績

モクネット規格材の供給数：約200棟分相当

5. 事業の成果

国産材・秋田杉の特性を活かした伝統的な木の家づくりが地球環境に穏やかで、生活環境の改善につながることで注目されている。いわゆる、環境と調和し共生する「エコロジーな住宅」である。これが、森林・林業を視野に入れたモクネットの家づくり運動の主旨と合い、モクネット規格（並材）の自然乾燥の柱や梁、内装材の需要が伸びている。

モクネットが求め、提案してきた家づくりが、家族のアレルギー症状など健康や命の問題で、今では逆にユーザーたちから木の家が求められている。

このような状況が各地にあり、林業の現状とも合い、並材利用を主体とした産直グループや設計グループ、工務店など、木の家づくりの情報交換や産地交流などで協力し合う全国的なネットワークがモクネットなどの提案でできつつある。

国産材・秋田杉の家づくりの産直や設計、工務店などのグループが増えつつある証で

もあり、県・産地の枠を超えた波及の一つと考える。

木材業界と少し趣の違う切り口で、林業・木材の本質的なところを押さえた新たな需要拡大の動きと捉えることもできる。約15年前、都市での市民運動（森林問題を考える会ネットワーク21）の試行錯誤から生まれた秋田杉の産地直結システムをもって各地の仲間たちが力強くモクネットの運動を展開、継続している。

モクネット運動の基本的な役割の一つ、流域での歴史的で文化的な林業・木材の地場産業が拠り所として感じ、見える二ツ井町の町づくりがある。

これまでの都市との交流や産地直結システムを活かし、流域・地元の仲間たちと木の家づくりを通して地域材の地元利用と町づくりを併せて提案している。

一般の住宅や公共施設など、特にモクネット運動の理念を活かした町営住宅（16棟20世帯）の完成で、林業・木材の町として、町内外への情報発信の場・拠点が初めてできたと考えている。

6. 今後の取組み

全国的に木の家を求める人たちが増える中、モクネットの供給能力がなかなか追いつかない。供給能力は確実に上がっているが、現在関わっている仲間たちの需要が多くなり、供給能力の上まった分を吸収しているのが現状である。この状況を改善するため、ストックヤードの再構築と森林組合や素材生産者、製材メーカーとの連携を太くし、規格材の共通化などで供給力を上げていく。

このことは、地域材利用の家づくりで家並み、町並みにつなげ、林業・木材の町づくりを進めることにも影響がある。

林業・木材・住宅・生活とが、切り離された現状を改善するため、地域の家づくりに安定して木材供給を行うことが大事な役割の一つと考える。そのことで家ができ、生活や家並みなどが確認できることで、林業・木材産業への波及や貢献が具体的に見えてくる。これらのことから、林業と木材と住宅を一体の地場産業として捉え、農業と合わせ考えると地域全体が大きく循環し、農と林の歯車が噛み合う仕組みを持ち合わせた一次産業の豊かな地域であることが確認できる。農林業が基幹の無理のない、本来の町の姿、本来の産地の姿が見えてくる。

このことを知ってもらうため、地域の人、大工や工務店、設計事務所、そして木材業界の人たちとの町づくりネットワーク（仮称：よねしろ・ふたついで・里山ネットワーク）で家づくりや町づくりのセミナー、後継者育成のための設計や大工の研修会を開催するなど、研修・交流の場農林業体験の場でもある施設の整備を二ツ井に関わり続けている人、新たに関わる人たちと共に企画・計画している。